

2022年5月12日
日本銀行横浜支店

神奈川県金融経済概況（2022年5月）

I. 概況

神奈川県は、供給制約の影響を強く受けながらも、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで、基調としては持ち直している。ただし、地政学的リスクの高まりに伴う影響には、注視が必要である。

輸出や生産は持ち直しのペースが鈍化している。設備投資は持ち直している。雇用・所得環境は、一部で持ち直しの動きがみられるものの、依然として弱めの動きとなっている。個人消費は、下押し圧力が和らぐもとで、緩やかに持ち直している。住宅投資は緩やかに持ち直している。公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。

金融面をみると、貸出は、高めの水準で横ばい圏内の動きとなっている。預金は、引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出：供給制約の影響から、持ち直しのペースが鈍化している。

- ・ 22/3月の横浜港の輸出額は、半導体等製造装置などの増加により、前年を上回ったものの、中国向けの減少などから、持ち直しのペースが鈍化している。

(2) 生産： 供給制約の影響から、持ち直しのペースが鈍化している。

- ・ 素材関連は、回復している。
- ・ 輸送機械は、供給制約の影響から、足踏み状態となっている。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、増加している。
- ・ 電気機械は、供給制約の影響から、弱い動きとなっている。

(3) 設備投資： 持ち直している。

- ・ 22/3月短観では、21年度の設備投資は、半導体の需要増に対応した能増投資などから前年度を上回る見込みとなっている。22年度は前年度並みの計画となっている。

(4) 雇用・所得環境： 一部で持ち直しの動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響から、依然として弱めの動きとなっている。

- ・ 22/3月の有効求人倍率（就業地別）は、前月から上昇した。22/2月の名目賃金は前年を下回った一方、常用雇用者数は前年を上回った。

(5) 個人消費： 新型コロナウイルス感染症による下押し圧力が和らぐもとで、緩やかに持ち直している。

- ・ 百貨店販売額は、持ち直しつつある。
- ・ スーパー販売額は、横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ ドラッグストア販売額は、堅調に推移している。
- ・ 家電販売額は、持ち直しの動きがみられている。
- ・ 新車登録台数は、供給制約の影響から、足もと弱めの動きとなっている。
- ・ 宿泊施設の客室稼働率は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、緩やかに持ち直している。

(6) 住宅投資： 緩やかに持ち直している。

- ・ 22/3月の新設住宅着工戸数は、前年を上回った。
- ・ 22/1-3月の新設住宅着工戸数は、分譲マンション、持家が減少したものの、貸家、分譲戸建てが増加したことから、全体では前年を上回った。

(7) 公共投資： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 22/3月の公共工事請負額は、前年を下回った。
- ・ 22/1-3月の公共工事請負額は、市町村、独立行政法人等、県などで増加したものの、国などが減少したことから、全体では前年を下回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 高めの水準で横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、高めの水準で推移している。個人向けは住宅ローンを中心に増加している。法人向けは運転資金を中心に高めの水準で推移している（貸出金末残前年比：22/2月▲0.2%→3月+0.3%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、緩やかな低下傾向にある（月末貸出約定平均金利：22/2月0.988%→3月0.989%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：22/2月+2.5%→3月+4.3%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。